

目的 被服容量は着衣の環境内に占める容量を意味し、それは、被服の外観的性質を表現するものでもある。被服は、材料のドレープ性能とデザインにより形態が決定され、さらに、着装することにより、人体の容積と、人体と被服間の離体部空隙の容量が合計され、被服容量が与えられる。被服内部の空隙量(被服内空気量)は、ゆとり量をあらわし、熱的性質を知るためにも重要な因子である。被服内空気量は、部位により差があり、また、動作による被服の揺動などから必ずしも一定値を示すものではない。本研究では、立位静止時の局所の被服内空気量、局所被服容量について検討した。

方法 被服内空気量の計測は、空気-水置換法(第1報)により行った。すなわち、供試被服をPVCフィルムで作成し、水槽の中に立ち、水位を次第に上昇させ、被服内の空気を水と置換し、着衣の上部から排出される空気量を計測した。実験条件は、室温25℃、気湿RH65%、水温は36±1℃である。局所被服容量に関する分割部位は、セミタイトスカート、ズボンは、胸囲線、腰囲線、股下線、膝囲線、裾囲線の5基準線から分割される4部位とし、ワンピースドレスは、頸付根囲線、胸囲線を加え、7基準線からなる6部位とした。

結果 ズボンスタイルはスカートスタイルに比べ、被服容量は小さく、特に腰囲線～股下線部位は約30%小さいことが示された。ワンピースドレススタイルは、胸囲線から上部に全体量の約40%の空気を含むことがわかった。被服内空気量の計測から、ゆとり量を従来の長さ方向ゆとり量に対し、局所別の体積ゆとり量として把握することができた。